

圖書館通信

静岡大学附属図書館報

No.134



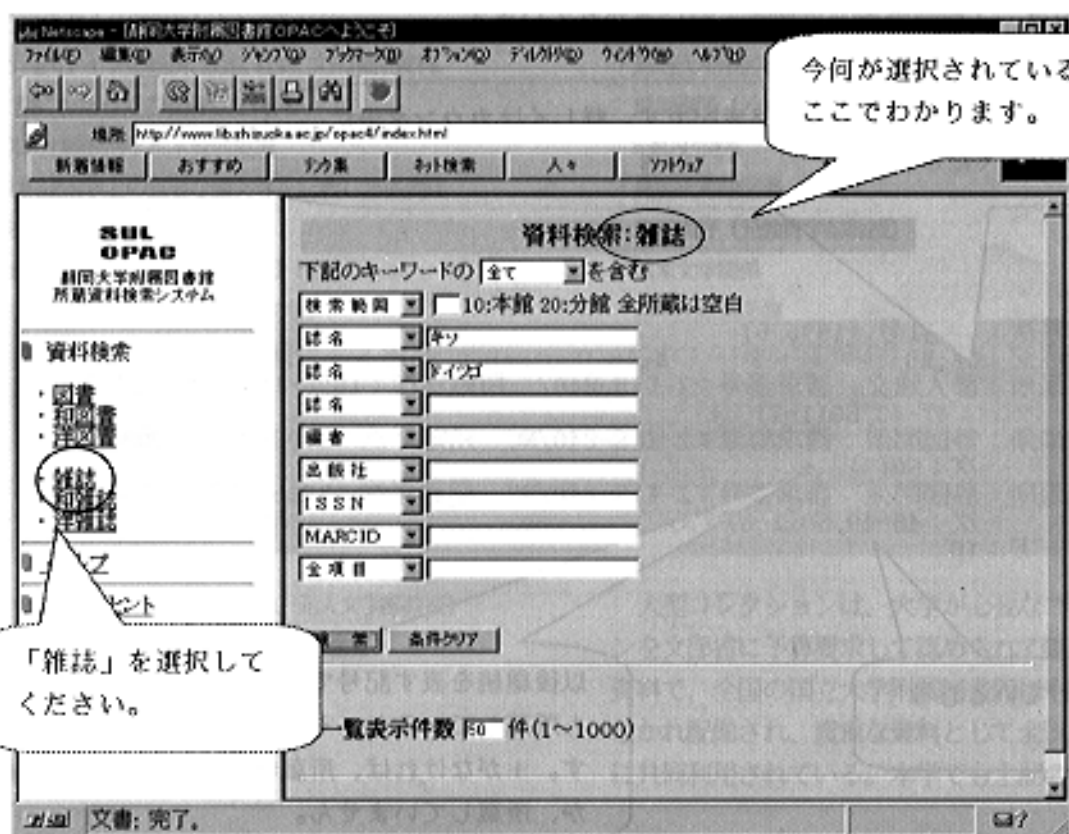
2000. 12

●シリーズ“1”雑誌を探すには ●コレクション案内-資料収集について- ●情報活用講座報告(静岡本館)

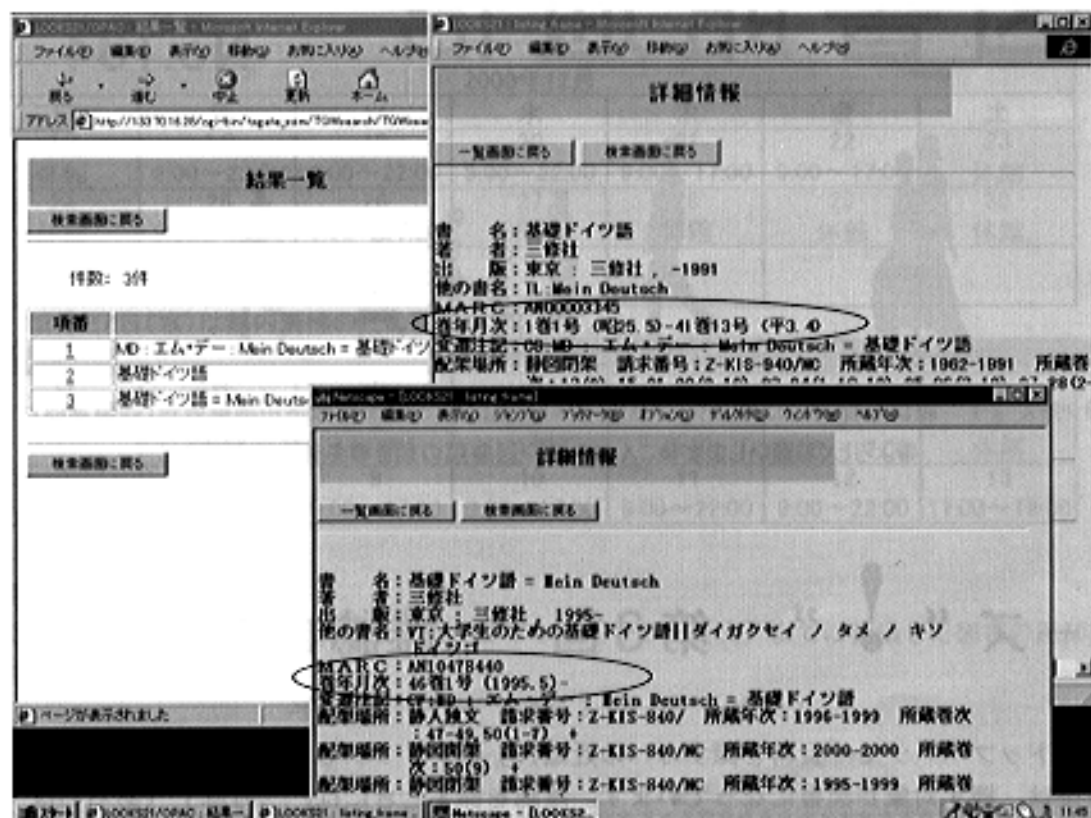
●よろしくお願ひします●こんにちは●図書館の動き●冬休みのお知らせ

シリーズ “**！**” 第3回 雑誌を探すには

図書館のトップページで「資料を探す方への近道!!」をクリックして、資料検索のページに飛んできた直後は、探す対象が図書になっています。雑誌を探すときには、「雑誌」（あるいは「和雑誌」「洋雑誌」）を選んでから、雑誌名等を入れて探してください。



同じタイトルがいくつも出てきたら、「出版」「巻年月次」などで、どれが探している雑誌なのか確認してください。



所蔵状況は、「配架場所」で始まる行に書かれています。

雑誌が置いてある場所の略表記です。詳しくはカウンターにきいてください。

巻年月次: 1巻1号 (1995.5)-
 変遷注記: C:MD: エム・デー: Mein Deutsch = 基礎ドイツ語
 配架場所: 静人独文 請求番号: Z-KIS-840/ 所蔵年次: 1996-1999 所蔵巻次: 47-49, 50(1-7) +
 配架場所: 静図開架 請求番号: Z-KIS-840/NC 所蔵年次: 2000-2000 所蔵巻次: 50(9) +
 配架場所: 静図閉架 請求番号: Z-KIS-840/NC 所蔵年次: 1995-1999 所蔵巻次: 46-49, 50(1-8)
 館コード: 10

所蔵している巻号です。

以後継続を表す記号です。+なら、それ以降も所蔵しているか、その予定だということです。+がなければ、所蔵巻次に記された分しか、所蔵していません。

コレクション案内 -資料収集について-

下村 一夫

静岡大学附属図書館には、まとまった資料がいくつかある。既に『附属図書館概要』に記載されており、『図書館通信』にも一部紹介されていて、屋上屋を重ねる感もあるが、20世紀を終えるこの際に、あらためてこれら資料をまとめて案内しておきたい。ここでのコレクションの意味は、本来別々の資料を何らかの意図でまとめられた資料群のことをさす。寄贈図書は文庫の名称を与えられたものがあるが、一部除き所蔵者の姓氏寄贈とした。所蔵者名の敬称は略した。

大型コレクション

- ・国際連盟行政資料
各部門の記録、連盟総会の公式記録がほぼ完備。
- ・Le Monde
フランスのクオリティペーパー。1944-1983
- ・原家田蔵江戸後期芸文資料
江戸後期を中心に明治期に及ぶ、俳諧書を中心とした文芸資料
- ・近現代ドイツ資料コレクション
近現代ドイツの経済、政治、社会、文化関係資料。3期にわたっての収集した資料。
- ・欧米比較政治学基本資料集成
比較政治学上の重要な論文等を記載した主要誌を集成した資料。
- ・Landolt Bornstein Numerical Data
科学・技術に関する実験データ集。

寄贈図書（庫不同）

- ・河井家寄贈新聞
河井弥八（元参議院議長）
明治、大正に亘る新聞30余紙。
- ・小此木氏寄贈
小此木真三郎（静大名誉教授、元人文学部教授）
政治史・国際政治関係（主として洋書）。
- ・坂藤氏寄贈図書
坂藤英隆（富士市）
漢籍（洋装版）

- ・静岡地方裁判所掛川支部寄贈図書
静岡地方裁判所掛川支部 明治期所行法律書
- ・エスペラント語関係寄贈図書
大場秋雄（静岡市）
エスペラント語関係図書（原著語図書・和書）
- ・宇山氏寄贈図書
宇山直亮（元教育学部教授）
英米文学関係（和書・洋書）
- ・花岡氏寄贈図書
花岡俊輔
日本文化史、民俗関係
- ・手塚氏寄贈図書
手塚弘保（元東海大学教授）
人文科学関係ロシア語文献
- ・白石氏寄贈図書
白石信明（弁護士）
法律関係専門図書
- ・河内氏寄贈図書
河内清（元人文学部教授）
フランス文学関係（主として洋書）
- ・黒羽氏寄贈図書
黒羽清隆（元教育学部教授）
昭和史関係
- ・鳥居氏寄贈図書
鳥居次好（元教育学部教授）
英米文学関係
- ・田中氏寄贈図書
田中敬一（元人文学部教授）
フランス文学関係（洋書）
- ・小沢氏寄贈図書
小沢敬彦（元人文学部教授）
英米文学関係（洋書）

大型コレクションは、大学が必要なコレクションを文部省に予算要求して認められて購入された資料で、全国の国立大学附属図書館にも多かれ少なかれ配備され、貴重な資料として全国の研究者に共同利用されている。本学でも上記のように数

点購入されている。コレクションの購入意図が、大学の事情もあって、同じテーマを一貫して追求したものではないし予算要求しても毎年認められ予算配分されることはなく、またコレクションが都合良く販売されていることもないから、その都度必要に応じて購入されたコレクションとなる。しかしながら、文部省の大型コレクション経費はコレクションを購入するには予算が乏しい大学にとって貴重な財源であり、その時々に必要なコレクションであっても購入され配備されることは意義あるものである。

寄贈図書は蔵書所有者自身、または遺族からの申し出があり、これを紹介、仲介してくれる方の資料の一定の評価を得て、図書館の事情と合致し同意を得たものを寄贈資料として受け入れさせて頂いている。往々にして所蔵者の記念、顕彰として、一括寄贈の申し出が多くあり、一般書架と別置して欲しい旨の意向が伝えられる。しかし、図書館としては、書庫が狭隘であり、別置は書庫内に小さな塊がいくつかできることになることから、一般書架に混配させて頂くこと、そして重複図書はさけること、そして寄贈図書が一定の主題をもつ貴重なものを条件に寄贈受入対象にしてきた。昔は多少緩やかであったが、昨今は書庫の狭隘化が一段と進み、また、人手も少なくなり、手間が掛けられなくなりつつある状況では、折角の寄贈申し出を断わらずをえなくなっている。そうは言っても中には貴重なものもあり、条件にあえば少しは受け入れていくことになる。寄贈された場合は、できるだけ簡単であっても冊子体目録を作ることになっている。今までの寄贈図書の総冊数は本学蔵書冊数の1%に満たない。

一括の寄贈図書の受入について色々異論があることは承知している。個別図書館がそれを収集することに、情報共有論から批判的な異見があることも理解している。しかしながら、批判を敷衍し過ぎると、個別図書館が資料収集することの是非を問われることになる。図書館運営上バランスを勘案しつつ、資料の少なさを補うために大学が必要と思われる資料をいろいろな方法で、収集を図ることは大事である。

相互貸借による本学図書館から他大学、機関への借入依頼は2年間分(1998.10~2000.10)で、

和書570冊、洋書775冊、計1,345冊である。そして、1990年代出版図書が和洋共に約30%を占めており、1960年以前の図書は15.6%となっている。そして、古いものは19世紀の図書もあり、新しいものでは2000年の図書がある。借入依頼とは本学図書館にそれらの図書がないことを意味し、古書を求めている事が分かる。比較的新しい図書が求められているのは、限られた経費の中で受け入れられないからである。洋書は購入できないのは広汎にわたるからやむえないかも知れないが、和書は手に入れやすく収集対象となるものまで購入されていない。本学ではそれらの資料が結果的に抜け落ちて購入されない現状がある。全般的に資料収集のためには限られた予算を有効に使い、大学全体としてできるだけ多くの図書の収集を考えて行く必要がある。

現在は資料の形態が変化し、特に電子媒体資料が出版され、インターネットによる配信資料も出回りつつある。これらは図書館の資料収集、保存に大きな影響を与える。そこから将来の図書館の姿を想像力豊かに描き、語ることはできる。しかし、それに基づいて施策をとるには、見えない事柄も多く、社会、技術の変化も大きい時代では難しい。それらは次世代が現実の中で格闘しつつ確立していくものだろう。現在は地道に努力を重ね資料収集の営為を続けていく他ないであろう。図書館は資料収集だけに止まるわけではなく、多くの問題を抱えており、色々な側面や視点から捉えて考えねばならない。例えば図書館にとって重要な利用サービスは、今までも現在も欠けている面があるからとより強化していく必要性が強調され、それに合わせた方策を立ててきている。同様に、資料を適確に収集し、保存していくことにも力を注ぐ必要がある。利用者と他所の資料を結びつける仲介機能のみをもつ図書館が考えられるが、あえていえば、資料なき図書館は図書館とは思えない。資料があって、それを利用者に提供する機能をもつのが図書館なのだから。

本学の図書館は資料を購入する経費が十全でなく、また、資料を納める空間が極めて狭隘なのは大きな問題である。資料のあり方が変化し続けている時代にあっても、基本的な事柄は確実に果たして行かなければならない。

この稿の作成にあたって、参考調査係に協力を得た。感謝したい。(附属図書館事務部長)

情報活用講座報告

「卒論・修論のための情報活用講座」を受けて

教育学部 幼児教育 柴田優子

恥ずかしながら、私はこの講座で初めて閲覧室に入った。パソコンによる資料検索で、自分の大学の図書館にある図書だけでなく、新聞記事や雑誌などの情報も得られるし、他の大学の図書館が所蔵する図書の状態や、さらには世界中の図書館の蔵書すべての情報をも得ることが、いとも簡単に出来ることを知りとても驚いた。「情報化社会」とか「IT産業」とか、パソコンに関連した世の中の動きを表現する言葉を、毎日必ず、当たり前のようにどこかで目にするようになった今日、本当にコンピュータによる様々な技術の発展には驚かされるばかりだ。

今回のこの講座では、情報処理活用の基本として、以下の三点を自分のものとして身につけておくことを学んだ。パソコンで、自分の大学の蔵書検索は『OPAC』を、学外蔵書検索は『NACSIS-MeCat』を、新聞記事資料検索は CD-ROM データベースを、それぞれクリックするだけで出来ることだ。なぜ一年生の時から知っていなかったのだらうと、悔しささえ感じてしまうほど、本当に簡単で便利だと思った。自分が必要としている本を探す時、その本がどこの図書館にどんな状態で所蔵されているか、貸し出し状況・返却予定はどうなっているか、どこの棚を探せば見つけれられるか、ということがすべてわかるの

だ。それだけでなく、私が最も便利だと感じたのは、具体的に借りたい本が決まっていなくても、キーワードを入れるだけで、そこから自分が必要としている分野の図書を絞り込み、教えてくれることだ。書名だけでなく、著者の名前で検索することもできる。どちらもまるで「こんな本がありますがいかがでしょうか？」とでも言っているかのように、たくさんの本を紹介してくれる。その中から本を選ぶのは、いろいろ図書館を回って探すよりずっと手軽で確実に、ずらっと棚に並ぶ本を目の前にするよりずっと見やすい。新聞記事検索も、一日分でさえ相当な情報量に思えるものを、何年間分もの膨大な量の記事を、キーワードを入れるだけであっという間に拾い出す。例えばある期間に渡るある情報を得たい時、一枚一枚新聞をめくって探していたら、どれだけの時間がかかるだろう。記事を見落とすこともあるかもしれない。その点、パソコンによる検索は、膨大な情報量の中から、無駄・落ちのない選別をあっという間にやることのできる。

今同学んだ資料検索の方法をフルに活用して、出来る限り多くの資料を集め、レポートや卒論に十分に役立て、満足いくものを仕上げたい。

「附属図書館新入生セミナー」に続き、4年生・院生向けに「卒論・修論のための情報活用講座」を10月16日から1週間、1日2回計10回実施しました。参加者は学生39名、教官3名で例年に比べ2倍以上となり、学生と教官の方の熱意が感じられる大変充実したセミナーとなりました。「雑誌記事索引」での論文検索法、新聞記事データベースでの新聞記事検索法、又インターネットでの海外学術情報の入手法など行いました。パソコンの前に学生と職員が1対1の形で座り実際に検索を体験したり、探した文献を確実に早く取り寄せるために依頼方法を習得してもらいました。

今年度末には図書館5階第2閲覧室(Harvest Room)にパソコン台数が増える予定です。来年度はこれらのパソコンを利用してより多くの学生がこの講座に参加し、様々な学術情報へのアクセス法を修得し、学習・研究活動に役立てていただけたらと思っています。

よろしくお願いします。

参考調査係 福井 郁夫

平成12年4月図書館に配属され、早いもので半年が経ちました。4月に図書館に来て一番初めに感じたことは、カウンターの高さが意外に低いということでした。自分が図書館を使っていた頃は、カウンターというのは利用者と図書館員を隔てる壁のように感じたこともありましたが、もちろんその高さは大きく変わるものではないので、その差は中から見るとの視点と外から見るとの視点の違いだと思います。実際に静岡大学の図書館を利用者として利用したことがないので何ともいえませんが、利用者の側から見るとカウンターは高く見えるのではないのでしょうか。カウンターの向こうにいる職員に話しかけるとするのは初めは少し勇気があることだと思いますが、その心理的障害を少しでも取り除くことができるようにしていきたいと思っています。

僕が配属されたのは参考調査係で、図書館での仕事の経験もないまま実際に利用者と毎日接する仕事をする事になったわけですが、半年間人文学部学務係にいたおかげで気持ち的に余裕を持って仕事にのぞむことができたと思います。

ところで参考調査係とはいったい何をするとどこかわかりますか？ 図書館用語集-改訂版-によれば参考調査とは「情報を求めている利用者に対して、図書館員が提供する個人的援助。――狭義には情報を求める利用者の質問（参考質問）に対して、回答となる情報そのものを提供したり、回答の含まれる情報源を指示・提供することをいい――広義には図書館やその所蔵資料の案内・利用指導などの利用案内業務を含めていい――。」となっています。



(情報活用講座でPCの指導中)

つまり図書館の中で何か分からないことがあったら(図書・雑誌の検索の仕方、CD-ROMの使い方...etc.)対応する窓口だと考えてもらえばいいと思います。現在参考調査係は、3人で構成されていて僕以外の2人は大ベテランの方々なので足を引っ張らないように努力していますが、まだまだ色々と迷惑をかけてしまっています。あたりまえの事ですが、カウンターの中にいる以上経験があろうがなかろうが利用者から見れば一人の職員ですからサービスを提供していく必要があります。しかし、いくら図書館学を学んだところで実際に利用者によく対応できるわけではありません。それには必ず経験が必要になってきますが、そのことを不十分なサービスの言い訳にすることはできません。3人いる係員の中でほかの人なら何とかしてくれることでも、僕に話しかけたばかりに問題が解決できなかったということだけにはならないようにしていきたいと思っています。そして、学生・先生に対する的確な援助を与えることによってその目的達成の手助けができればと思います。

こんにちは 浜松分館の尾藤です！

浜松分館 尾藤 泰代

この春から、静岡大学附属図書館浜松分館で働いています。今までは図書館を利用する側であり、図書館を運営する側になるのは初めてで、わからないことだらけで毎日勉強しています。

図書館には、資料の貸出だけではなく、様々な仕事があります。レファレンスを含む図書館利用に関するあらゆる利用者の質問に答えること、図書や雑誌を購入し整理すること、図書の相互貸借や文献複写など他の図書館の資料の利用又は他の図書館からの利用に関すること、それらの仕事をうまく機能させるためにしなければならないこと。他にももっとありますが、その中で私が現在行っている仕事は、雑誌受入業務です。日常的に行っているのは、主に雑誌のチェックインです。現在浜松分館では、洋雑誌 429 誌、和雑誌 377 誌、計 806 誌の雑誌を購入しています。刊行頻度は様々ですが、毎日到着する雑誌の情報をコンピュータに入力し、書架や研究室へと整理しています。チェックインの際に欠号・未着雑誌があれば、書店へのクレームも行います。雑誌のチェックインは精算など金銭に関わることなので、慎重に行うよう心掛けています。また、年間を通じた仕事としては、次年度雑誌の申込みや契約に関わる仕事をしています。夏には教官等を対象とした次年度雑誌申込み調査を行い、現在は洋雑誌を購入する書店が決定したところです。これから、和雑誌購入書店と契約したり、年が明けたら精算の準備をしたりする予定です。わからないことも多く、ひとつひとつ先輩や本館の職員に質問しながら働いています。

現在図書館で働いていて思うのは、図書館は過渡期にあるのだなあということです。洋雑誌の価格高騰、電子ジャーナルの定着、情報へのコンピュータ化されたアクセス。この波にのみこなれないようにしなければならないと思います。電子ジャーナルについては、先日、電子ジャーナルに関する質問があった時、業者に問い合わせたり、出版社のホームページを覗いたり

しながら、なんとか Nature の無料電子ジャーナルにアクセスすることが出来ました。登録等電子ジャーナルの構造についてちっともわからない中での成功は、本当に嬉しかったです。他の図書館のパンフレットなどを読んでいても、電子ジャーナルに対するニーズは高まってきており、また実際に定着しつつあるような気がしました。電子ジャーナルは、現在本館にて検討中ですが、私も雑誌に関わる図書館職員として、どういう構造になっているか、他の図書館ではどう扱われているか等を勉強し、その話が出た時に内容が理解できるようにしなければならないと思っています。

また、浜松分館においても、情報学部を設置や工学部の四年一貫教育に伴う課題があります。工学部の図書館からより広い範囲を対象とする図書館への変化の中で、資料についても、スペースについても考えなければならないことがたくさんあります。12 月に行われる書架増加に向けて、私も雑誌架の配置についていろいろ考えています。

今後、まず一年間を通じた図書館業務の流れを勉強し、その上で、どんな事が問題になっているか、その事について教官・職員・利用者がどう考えているかを学び、より良い図書館作りが出来るように頑張っていきたいと思います。

***** 図書館の動き *****

◆会 議 平成12年度第2回静岡大学附属図書館委員会
[平成12年9月29日(金)]

議題

1. 審議事項

- 1) 静岡大学附属図書館委員会規則の改正について
- 2) 静岡大学附属図書館浜松分館長選考規則の改正について

2. 報告事項

- (1) 平成13年度以降の附属図書館経費について
- (2) その他

冬休みのお知らせ

本館(静岡) *****

●年末年始の予定

2000年12月						
日	月	火	水	木	金	土
17 休館	18 9:00~22:00	19 9:00~22:00	20 9:00~22:00	21 9:00~17:00	22 9:00~17:00	23 休館
24 休館	25 9:00~17:00	26 9:00~17:00	27 休館	28 休館	29 休館	30 休館
31 休館						

※12月27日(水)は館内清掃のため臨時休館します。

2001年1月						
日	月	火	水	木	金	土
	1 休館	2 休館	3 休館	4 休館	5 9:00~17:00	6 休館
7 休館	8 休館	9 9:00~17:00	10 9:00~17:00	11 9:00~22:00	12 9:00~22:00	13 11:00~19:00

●返却期限日の変更

平成12年11月30日(木)から平成12年12月26日(火)までに貸出した図書の返却期限日は、次の通りです。

平成13年1月17日(水)

分館(浜松) *****

●年末年始の予定

2000年12月						
日	月	火	水	木	金	土
17 休館	18 9:00~20:00	19 9:00~20:00	20 9:00~20:00	21 休館	22 休館	23 休館
24 休館	25 休館	26 休館	27 休館	28 休館	29 休館	30 休館
31 休館						

2001年1月						
日	月	火	水	木	金	土
	1 休館	2 休館	3 休館	4 休館	5 休館	6 休館
7 休館	8 休館	9 9:00~17:00	10 9:00~17:00	11 9:00~20:00	12 9:00~20:00	13 9:00~17:00

※12月21,22日、25~27日と1月5日は館内の書架移動のため閉館します。

●返却期限日の変更

平成12年12月7日(木)から平成12年12月20日(水)までに貸出した図書の返却期限日は、次の通りです。

平成13年1月11日(木)

静岡大学附属図書館報「図書館通信」 第134号 (平成12年12月1日発行)

発行所 静岡大学附属図書館

〒422-8529 静岡市大谷836 Tel.054-238-4475

Fax.054-238-5408